



2階の小屋裏に掲げられたから移築の時の棟札。

「大正六丁巳年
造営當主 川田伊兵衛
大工 川田治兵衛」と記されている。

2階の和室10帖の天井は緩やかに湾曲しながら勾配が付く。

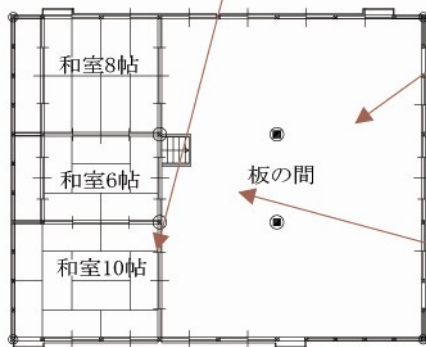
板の間との仕切りに使われている建具には、大正時代の結霜ガラスが残る。



2階板の間の床には扉付きの開口部があり、その上部の天井には滑車用フックが残り、荷物の上げ下げに使われていた。板の間の床板には明治中期に使われていた和釘の跡が残る。



1階の北面と2階の北面・東面の窓には縦格子が付き、町家の装いとなっている。



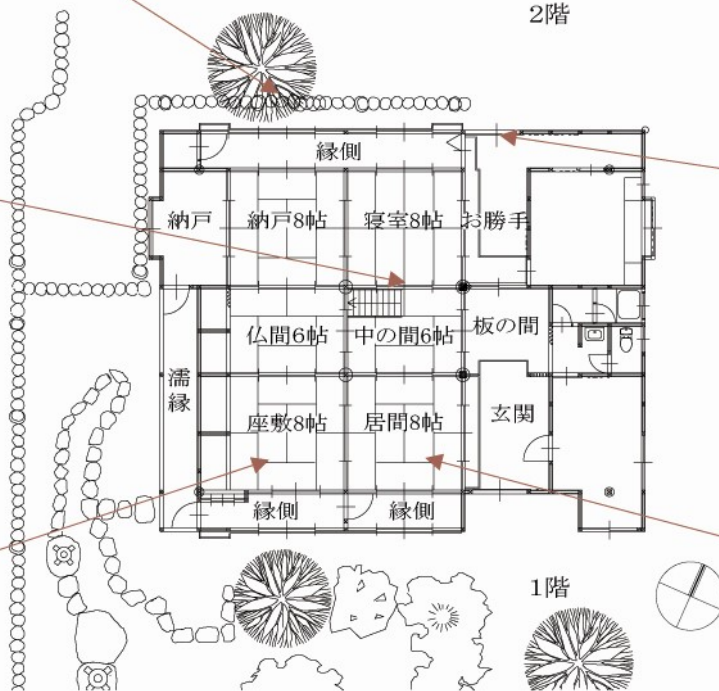
2階



2階の板の間や和室の天井に所々ある開閉窓。養蚕の蚕室の温度湿度を調整するための換気口として使われた窓。



中の間6帖の差し鴨居と梁の隙間にある小さなガラス入り横軸回転窓。養蚕を行っていた時の換気用として使われていたと考えられる。



1階

1階の北面にあるくぐり戸付き大戸。現在は裏手になるが、移築前はこちら側が表の玄関であった。その横の窓には縦格子が付く。



1階の西側、手前から座敷8帖、仏間、納戸8帖と3室続く。座敷と仏間は差し鴨居を見せないように仕上たきつね鴨居となっており格式の高い設えとなっている。



1階の居間8帖より西側の座敷8帖を見る。部材の高さが41cmもある差し鴨居が使われている。